WAU

ディープに伝えるマレーシア文化通信

［ワウ］Malaysia Cultural Post

No.18 WINTER 2018

TAKE FREE

マレー凧 Wau〈ワウ〉のように、色鮮やかで誇り高いマレーシアの伝統芸能、ごはん、映画に焦点をあて、専門家がディープに紹介する**フリーペーパー**



Special Interview with Michael Wong, Malaysian Singer

アジアの情歌（ラブソング）王子

マレーシア人歌手 光良さんにインタビュー

マイケル・ウォン

Cross-Cultural Comparison, Royal Selangor and Nousaku

マレーシアと日本を代表する錫ブランド

「ロイヤルセランゴール」と「能作」を徹底比較

音で訪ねるマレーシア

愛され続ける歌姫

シティ・ヌルハリザ

Culture of Malaysia

多様なマレーシアの祭日の過ごし方

WAU's Topics

古都マラッカをイメージした
「House of Lotus 日本橋店」オープン

講談社児童文学新人賞受賞
『リマ・トゥジュ・リマ・トゥジュ・トゥジュ』

WAU Gallery

ボルネオの熱帯雨林で

WAU's Topics

マレーシアに関する情報を伝えるコーナー。
話題になった出来事などをWAU編集部がカルチャーな視点でピックアップ！

Shop in Japan



HOUSE OF LOTUS 日本橋店オープン！

世界を巡り歩く桐島かれんさんが、各国の文化と美しい手仕事の魅力を紹介する「ハウス オブ ロータス」。2018年9月にオープンした日本橋店は、マレーシアの古都マラッカをイメージした店舗となっています。東西交易の拠点として発展したマラッカは、まさに文化の交差点。そんな町でかれんさんが出合った、どこか懐かしい雑貨やエレガントで素敵なファッションアイテムが並ぶ店内は、私たちを軽やかに異国の地へと誘います。心躍る空間への入り口にある、マラッカの伝統的なランタンが印象的です。

ハウス オブ ロータス 日本橋店
東京都中央区日本橋 2-5-1 日本橋高島屋S.C. 新館 3F
https://houseoflotus.jp/

Filmmaker in Malaysia



Lydia Lubon

リディア・ルボンさんが来日

ドキュメンタリー作家・プロデューサーであるリディア・ルボンさんが、「アジア・リーダーシップ・フェロー・プログラム（ALFP）※」のフェローとして来日。代表作は、ボルネオ島の絶滅危惧種スマトラサイを追った『Operation Sumatran Rhino（スマトラサイの住む森へ）』（2016年）。ナショナルジオグラフィック・ワイルドにマレーシアの作品として初めて取り上げられたドキュメンタリーです。また、石川テレビと共同で『HEART of TAIKO（太鼓の心）』（2015年）を製作するなど、国際的にも活躍。環境問題、野生動物の保護などに強い関心を持つリディアさんは、マレーシア・ドキュメンタリー協会（MyDocs）の事務局長も務め、作品を通して社会的課題に取り組んでいきたいと考えています。

リディア・ルボン（Lydia Lubon）／ドキュメンタリー映像作家・プロデューサー
※「ALFP」：http://alfpnetwork.net/
（共催：国際文化会館／国際交流基金アジアセンター）



募集中！

Lecture in Japan

Hati Malaysia主催

マレーシア文化講座「伝統弦楽器サペの響き」

ボルネオ島のサラワク州を代表する伝統的な弦楽器サペ、その音色はなんとも心地よく、独特な響きです。実演を交えながら、サペの文化的背景や楽器の構造、現地の若者に人気の今、旬な音楽バンドなどをご紹介します。

日時：2019年1月20日（日）11:00〜13:00　料金：3,000円
講師：上原亜季（WAU編集部/Hati Malaysia）　ゲスト：横山光（サペ奏者）
場所：光塾（渋谷）　詳細・申込み：hatimalaysia.com / info@hatimalaysia.com

三越カルチャーサロン主催［Hati Malaysiaによる文化講座］

「マレーシアの春節コース」で福をよびこもう 〜混ぜて、願って、食べて。食文化体験講座〜

中国正月にあわせて、1年で1度しか食べられない、豪華で貴重な春節料理をお楽しみいただきながら、華人文化を紹介します。みんなで一緒に祝祭気分を味わいながら、福をよびこみましょう！

日時：2019年2月1日（金）12:00〜14:30
料金：10,800円
講師：上原亜季・古川音（WAU編集部/Hati Malaysia）
場所：マレーアジアンクイジーン横浜店
（元町中華街近く）
問合わせ：hatimalaysia.com（12月5日より受付）



Book in Japan



講談社児童文学新人賞受賞

『リマ・トゥジュ・リマ・トゥジュ・トゥジュ』

主人公の花岡沙弥は、マレーシアからの帰国子女。中学校のクラスで浮かないよう、友人たちの顔色をうかがって過ごす日々。そんな沙弥が、黒髪の督促女王こと佐藤先輩に誘われ、自分の気持ちを短歌で表現するところから、この物語は始まります。

題名の「リマ」「トゥジュ」はマレー語で5と7。つまり、5・7・5・7・7という短歌の世界が、この本のキーワード。沙弥の作る短歌は、日本語とマレー語のミックスになっています。中学2年生のころ、家族旅行で行ったマレーシアに魅せられたという、著者のこまつさん。“そうだった。マレーシアのそういうところが好きだった。みんな同じ、ではない。ちがいがあること、それがふつう。”この沙弥のつぶやきは、著者自身の思いでもあるのです。

『リマ・トゥジュ・リマ・トゥジュ・トゥジュ』こまつあやこ著／講談社／1,200円
紀伊國屋書店、内山書店など全国の書店で販売



サバ州のサンダカンにあるレインフォレスト・ディスカバリーセンター。鳥の鳴き声や好む食べ物など、熱帯雨林で鳥を見つけるために必要な知識を教えてくれる

ボルネオの熱帯雨林で
Borneo Rainforest

私はボルネオ出身で、外国にいると、故郷の熱帯雨林が恋しくなることがある。自分の頭の二倍くらいある大きな葉、高い木の幹に咲くランの花、地面を覆う苔の緑。生命力のみなぎる多様な木々の枝や葉にはばまれ、鳥たちの写真を撮ることはとても難しいのだが、オーケストラのように虫や動物の声が鳴り響いているなかで、なぜか穏やかに感じられる熱帯雨林で過ごす時間は、何物にもかえがたい。

ボルネオの熱帯雨林では、6種のキヌバネドリが見られる。山道を歩いていると、小さくやわらかい「ピュウ、ピュウ、ピュウ」という声を聞いた。振り返ると、枝から枝に飛び移ったアカエリキヌバネドリのオスの姿が目に入った。緑の海に宝石を見つけたような気持ちでシャッターを切った。

キヌバネドリと違い、ボルネオタンビヘキサンは、カラスのような大きな声で鳴き交わしながら、木々の間を群れで移動している。中の一羽が突然私の前の木に止まり、こちらをじっと見た。こんなふうに、そこかしこで私も見られているのかもしれない。

これらの鳥たちに出会うには、キナバル山やレインフォレスト・ディスカバリーセンターなどを訪ねていただきたい。そして、今、このような熱帯雨林がどんどん失われていることも、ぜひ知っておいていただきたい。

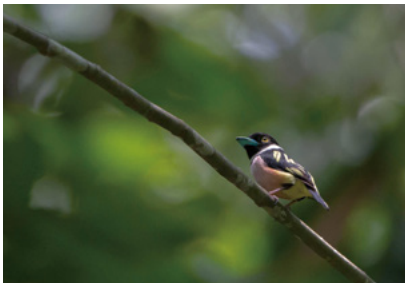


◀色鮮やかなアカエリキヌバネドリだが、単独で枝の上でじっとしていることが多く、飛ぶときも静か。目が肥えていなければ見つけることはできない



▲一羽、また一羽、ゆるい群れを形成しながら、カタツムリや小さな爬虫類を探しているボルネオタンビヘキサン

▼大きなくちばしが特徴のクビワヒロハシ。マレー半島とスマトラ、ボルネオに生息している



写真／文　Eugene Cheah（ユージン・チア）　コタキナバル出身の写真家。シギ・チドリなどの渡り性水鳥を専門とし、保護活動に貢献。料理も好き。

Special Interview with MICHAEL WONG, the Malaysian Singer

アジアの情歌王子、光良（マイケル・ウォン）さんにインタビュー

台湾を中心に、全世界の華人コミュニティーで絶大な人気を誇るシンガーソングライター、光良さん（英語名：マイケル・ウォン）。出身はマレーシアのイポーで、1996年より台湾に拠点を移して活動。アジアで記録的なCD売上を達成した曲「童話」は、あの香港スター、ジャッキー・チェンも絶賛。国を越え、世代をまたがり、歌で世界をつなぐ光良さんに、「童話」の誕生秘話、そして故郷への想いを伺いました。



どこかなつかしく、どこか切ないラブソング「童話」。2005年にリリースされ、瞬く間に台湾、中国、マレーシアなどで各音楽チャートの1位を独占。しっとりとしたメロディーに甘く澄んだ歌声が世界中の人々を魅了。この曲によって、光良さんは一躍有名になりました。

――「童話」は作詞作曲から手がけていらっしゃるのですね。

最初に曲とタイトルができ、あとから歌詞を書きました。もともと歌詞は他の人に依頼する予定でしたが、なかなか曲のイメージに合う歌詞に出会えず、結局、僕が書くことになったんです。

――歌詞にはどのような思いが込められていますか。

辛いことがあっても、ハッピーエンドになるよ、という気持ちを込めています。夢、愛するものを信じていれば、かならず道は開ける。これは僕の願いでもあります。また、天使のように君を守る、という歌詞は、愛する女性への男性の気持ち。男性は言葉にはしないけど、心のなかではいつも愛する人を守りたいと思っているから。

――「童話」は、最初にリリースされたミュージックビデオ（MV）も話題になりました。彼女と家でビデオを見ているシーン、中山美穂さん主演の『Love Letter』がでてきますよね。

あのころ台湾では日本の映画がとても流行っていて、カップルで見る映画といえば『Love Letter』だったんです。別のアルバムでは、小樽のロケ

写真／蘇益良



マレーシアでのコンサートの様子

“童話。それは、おとぎばなし。いくつもの困難を乗り越え、ハッピーエンドになる物語。これは空想の世界？　そうじゃない。僕らの人生もきっと同じだ。たとえ辛いことがあっても、ハッピーエンドにするのは自分自身だから。”

by Michael Wong



地でMV「2999年的聖誕節」を撮影したこともあります。

――また「童話」の編曲者は、日本人の中村タイチさん。3月に開催された日本初コンサートで、感動の再会になりました。

コンサートで伝えたように、中村さんに出会えなかったら、今の僕はいなかったかもしれません。当時、それまでの曲のイメージを変えたくて、新しい編曲者を探していたんです。中村さんは友人の知り合いで、初めて会った日に即興で弾いてくださった編曲がとてもすばらしく、すぐに任せることに決めました。童話以外でも僕の曲の編曲をいくつも担当して下さっています。

――国を越えて曲を作り上げる。それも日本の方が関わっているなんて、嬉しいです。「童話」のアルバムは全12曲、どの曲も素敵ですが、「童話」のほかに光良さんにとって大事な曲を教えてください。

どの曲も大事ですが、あえて選ぶとしたら、3曲目の「天堂」（日本語名は天国）です。この曲は、海外公演のときホテルでシャワーを浴びて寝ようとしたら、突然頭にメロディーが降ってきたんです。クリアな美しい旋律で、これがインスピレーションなのかな、と思いました。また、この曲はピアノの弾き語りで歌うことが多いのですが、初めはそれが苦手で。子どものころの僕は、人見知りで、知らない人と話せないタイプでした。だから、ひとりでピアノを弾いて歌うなんて、とてもできないと思ったんです。今ではだいぶん慣れたけど、やっぱり緊張します。これからも、ファンのみんなにもっと楽しんでもらえるよう、努力したいと思っています。

――話は変わりますが、故郷のイポーには帰省されますか。

ここ数年、両親に会うためによく帰っています。帰ったらかならず、ワンタンミー・ドライ（コシの強い細麺を特製ソースであえたもの）を食べますよ。イポーは水が綺麗なので、その水で作る麺類がおいしい。「炒粉（チャーフン）」とよばれる店で、チャークイティオ（幅広の米麺を炒めたもの）やビーフン炒めなどを食べるのが楽しみです。そうそう、僕の台湾の事務所のベランダで、パンダンリーフやレモングラスなど、マレーシア料理にかかせないハーブを育てているんですよ。故郷マレーシアの味がときどき恋しくなりますから。

――最後に今後の夢を教えてください。

映画監督をやってみたいかな。経験のある友人が周りにたくさんいるので、コツコツと計画を立てています。そしてまた日本でコンサートを開きたい。ファンのみなさんと会える日を楽しみにしています。



michaelxymusic

東京コンサートでは全 22 曲を披露!



2018 年 3 月 18 日に開催された初来日公演。約 2 時間のステージで、デビュー以来のヒット曲を次々に歌いあげた。リラックスした表情の中国語でのトークや客席に降りてきての握手など、フレンドリーな光良さんの姿はライブだからこそ。「感激しすぎたせいか、記憶が余りありません…」というファンも。また、初めてコンサートで「童話」を聞いた編曲者の中村タイチさんは「童話のイントロが流れたときの観客の方の反応がすごくて、あの曲がこんなにも愛されているんだ、と感激しました」とコメント。

マレーシアの音楽事情

多民族国家であるマレーシアは、民族それぞれで人気の歌手や音楽が異なっています。たとえば、光良さんは中国語で歌うため、中国系の間で人気。中国レストランの BGM や中国語のラジオ番組でよくかかっています。マレー語で歌う歌手にはマレー系のファンが多く、言語的に共通点の多いインドネシア人の歌手もマレー系の方に人気です。また、英語がネイティブ並みの人も多いため、洋楽のファンも多くいます。マレーシアでは、様々なジャンルの音楽が、町中で飛び交っています。あらためて、音楽に国は関係ない、と実感するのです。

Profile

光良さん

Micheal Wong



1995 年、デュオ「無印良品」としてデビュー。2000 年にソロになり、2001 年「第一次」、2005 年「童話」が大ヒット。抜群の歌唱力に美しく甘い歌声で、バラードを歌い上げる姿はラブソングの王子（情歌王子）とよばれる。

光良さんの曲情報



全 12 曲のアルバム「童話」（ロックレコード）はアマゾンで購入可。また App Store にて、「アプリ版アルバム」が 3 枚販売中。中国語の歌詞や MV つきで、1枚 360 円。おすすめの曲は「九種使用孤独的性格方式」と「給力」。とくに「給力」は、「歌詞が自分に語りかけられているようで、聞くたびに励まされます」とファンより。どれもとてもいい曲なので、おすすめ!

文／古川音 Oto Furukawa　写真提供／星娛音樂 XYmusic　表紙撮影／蘇益良 Liang Su　Special Thanks ／謝啓鑫 Cheah Kaishin・河村真紀子 Makiko Kawamura

錫（すず）ブランド

マレーシアの伝統工芸品、ピューター。錫（すず）を主原料とする製品で、金属がかもしだすクールな印象とエレガントな美しさが魅力です。また、錫には高いイオン効果があるといわれ、お茶やお酒の味がまろやかになるとか。さて、日本にも有名な錫ブランドがあるのをご存じですか。ともに創業 100 年をこえる老舗ブランドを紹介します。

ROYAL SELANGOR MALAYSIA

ロイヤルセランゴール

1885 年創業。当時、マレー半島の錫の採掘量は世界 1 位で、多くの商人や職人がマレーシアへ。創始者であるヨン・クーン氏もそのひとりです。1992 年、国王からロイヤルの称号が与えられ、国を代表するブランドに。現在はマレーシア国内のみならず、世界 20 カ国に製品を輸出。マレーシアに訪れる国賓への贈呈品としても使用されています。





左／クアラルンプール郊外にある本社。工場は見学が可能なビジターセンターになっている。玄関には巨大ビアマグの飾り。**右**／職人は勤続 20 年以上のベテランが多く、修業期間は 3 年必要と言われる。職人の数は約 300 人で、約7割は女性

ロイヤルセランゴールのピューター製品の特徴

ピューターとは、錫の強度を補うために他の金属を調合した合金のこと。ロイヤルセランゴール社は純度の高い錫を 92% 以上使用し、錫ならではのエレガントな艶感と職人の手で施された細やかなデザインが特徴です。絵柄には南国の植物をモチーフにしたものが多く、そのほかイスラム的な幾何学模様などさまざま。また、表面加工には光沢のあるもの、温かみのあるマット調の 2 種があり、最後の磨きによって表情を変えます。



1



2



3



4



5



6



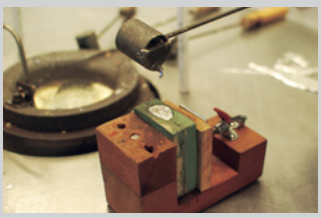
7



8

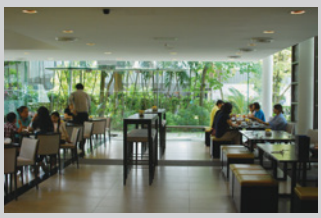
1, 2 南国の植物がデザインされたフリーマグ。保冷性に優れているため冷たいままの温度で中のドリンクがキープできる。**3** 風になびく紅葉の葉がデザインされた酒器。**4** フリージアとバラの花がデザインされた花瓶。部屋のインテリアとしてもインパクトあり。**5** 流線型が美しいメロン型のティーポット。このポットのおかげで、ひとりの青年が命拾いをした、という逸話をもつ。**6** 勇敢さと知性、そして情け深いとされる伝説の生物、龍をモチーフにしたカフス。**7** 密閉性に優れた茶筒は、華人系マレーシア人も愛用。**8** ティーセットのトレイ。

本社で体験



The Foundry

ザ・ファンドリーは、鋳型体験ができるワークショップ。灼熱 260 度の溶けたピューターの世界を体験できる。アイテムは文鎮やブレスレッドなど。時間は約 60 分、参加費は 159 リンギット。予約は 2 名以上より。Web にて受付。
www.royalselangor.com



Café

伝説をもつ「メロンポット」で紅茶が飲めるカフェ。大きな窓ガラスを配した明るい店内で、マレーシアの名物料理ラクサなどの軽食（日替わり）も提供。また、工場見学に参加すると、ピューター製のコップで冷えたドリンクを試し飲みできる。

文／古川音 Oto Furukawa、デザイン／ Keiko Murate、写真提供／ロイヤルセランゴール、能作、Oto Furukawa

国を代表する

JAPAN

能作

NOUSAKU

1916 年、富山県高岡の地に 400 年伝わる鋳造の技術を用いた仏具メーカーとして創業。現在は、錫製の食器を中心に 400 点以上のアイテムを手がけ、販売直営店は海外拠点を含めて 13 カ所。従来、やわらかいという特性上、商品の素材としては不向きとされていた錫を 100% 使うことで、錫製品の新しい可能性を発見したことでも有名です。



左／富山県高岡市にある本社。2017 年 4 月に移転オープンし、富山県の「産業観光地」としても注目されている。**右**／職人は約 50 人で、富山の伝統産業や美術に興味のある 30 代の若い人が多い

能作の錫製品の特徴

シンプルなデザインながら、丸みを帯びたフォルムが多く、どこか優し気で手になじむ温かさがあります。とくに特徴的なのは、錫 100%の性質をいかした自在に形が変えられるアイテム。たとえば、網状の「KAGO」（写真**7**）は、引っ張ったり曲げたりして、好きな形状に変形することができます。また、錆びにくい、朽ちにくいという錫の性質から、昔から縁起のいい器として贈答品にも人気。小ロット生産で、毎年 30 ～ 40 の新作を発表しています。



1, 2 表面だけでなく、内側にも凹凸のあるビアカップ。このざらっとした面がビールの泡をクリーミーにする。**3** 内側に金箔を飾った酒器セット。錫ならではのクールな印象を大事に、デザインはシンプルなものが多い。**4** りんご型の愛らしい花瓶。錫は抗菌性に優れているため、花瓶に最適。**5** 淡水パールをあしらったピアスは、エレガントな印象。**6** 冷蔵庫で 1 ～ 2 分ほど冷やすと器全体が冷たくなる錫の皿は、冷菜やサラダ用におすすめ。使用後は、中性洗剤とスポンジで洗うだけ。**7** 能作の代表作「KAGO」。自在に引き伸ばして使う。**8** 水引をモチーフにした箸置き。海外へのお土産に人気。

本社で体験



NOUSAKU LAB

砂を使って鋳型を作るところから製作を体験。アイテムは錫ぐい呑や箸置きなど。時間は約 30 分、参加費は 1000 円より。予約は 7 日前までは Web、それ以降は電話にて。
www.nousaku.co.jp　+81-766-63-0001



IMONO KITCHEN

富山県の食材を能作の器で味わえるカフェ。ドレッシングのソースピッチャーやベーグルのカゴに錫製品が使われている。また、カフェ横に設置してある水は井戸水で、こちらも能作の錫製のコップで自由に飲むことができる。

中国系

CHINESE NEW YEAR

〔春節・中国正月〕

中国系マレーシア人は、旧暦の正月を祝います。この時期、赤いランタンや縁起物の装飾、干支にちなんだ飾り付けなどで町中が赤く染まり、とても華やかです。友人、ご近所、取引先などにミカンを贈る習慣もあり、店頭に積み上げられた箱売りのミカンも風物詩。新年が明ける前に大掃除を済ませ、大晦日には家族そろって夕食をとり、新たな年をみんなで迎えます。元旦は、赤い衣装で着飾る人も［写真3］。お年玉は「紅包（アンパオ）」とよばれます。

店先やショッピングモールなどでは、太鼓、銅鑼、シンバルのリズムにあわせて舞う「獅子舞」［写真4］を見かけます。幸運を呼び込む獅子舞、マレーシアではアクロバティックで高度な技術を誇るグループが多数活躍しています。

中国正月の特別料理は「魚生（イーサン）」。親戚、友人などと食卓を囲み、野菜、サーモン、ピーナッツ、柑橘類などの具材をみんなで一斉に菜箸を使い、願掛けしながら豪快に混ぜ合わせる、という縁起物の料理です。



3



4

2019
2月5日
マレーシア全土の祝日

マレー系

HARI RAYA AIDILFITRI

〔ハリラヤ・アイディルフィトリ〕

イスラム教徒であるマレー系の人々は、1カ月間の断食月「ラマダン」が明けると「ハリラヤ・アイディルフィトリ」と言われる大祭を迎えます。多くの人は実家に帰省。ハリラヤ初日の朝、男性がモスクでの特別な礼拝を終えて帰宅すると、家族ごとに色や柄をそろえて新調した晴れ着［写真1］で着飾った親戚一同がサラーム（マレー式の握手）をしながら過去一年間の罪や過ちを許し合い、挨拶をします。そして、日本のお正月のように特別なご馳走を囲み、子供たちはお年玉をもらうのです。

この時期の料理に欠かせないのが、ヤシの葉で包んだお米を茹であげた「クトゥパッ（Ketupat）」［写真2］と牛肉の煮込み料理「ルンダン（Rendang）」、竹筒にココナッツミルクと餅米を入れて炊いた「レマン（Lemang）」。地域によっては野菜がたっぷり入ったスープカレー「ロントン・サユール・ロデ（Lontong Sayur Lodeh）」も特別料理。そして、友人宅を訪問しあうオープンハウスで提供されるビスケットなど、いろんな種類のお菓子「クエ・ラヤ（Kuih Raya）」も重要です。



1



2

写真提供／ディンさん

2019
6月5・6日
変更の可能性あり
マレーシア全土の祝日

サバ州・サラワク州

マレー半島と民族構成が大きく異なり、それぞれ30以上の先住民族が暮らすボルネオ島のサバ州とサラワク州では稲作が暮らしの中心であったため、「収穫祭」が開催されます。

TADAU KAAMATAN〔タダウ・カアマタン〕

サバ州のカダザンドゥスン族にとって大事なのは、お米の精霊に感謝の気持ちを捧げる収穫祭「カアマタン」です。各地域、各村でもお祭りが開催されます。また、州全体から様々な先住民族がプナンパンのカダザンドゥスン文化協会（通称KDCA）に集まり大祭が開かれ、伝統楽器の演奏や伝統舞踊［写真7］が披露されるほか、ビーズ細工や民芸品も販売されます。「サバ州美女コンテスト」も注目の的。



7

2019
5月30・31日
サバ州、ラブアン島のみ祝日

GAWAI DAYAK〔ガワイ・ダヤク〕

サラワク州のイバン族とビダユ族の収穫祭「ガワイ」。村人が共同生活をしている伝統的な住居「ロングハウス」では、お米が原料の地酒「トゥア（Tuak）」や伝統料理、米粉、砂糖、ココナッツミルクで作ったお菓子などが用意され、自然や大地の神々へと捧げ、感謝をすると同時に豊作、繁栄、長寿などを願います。民族衣装に着飾りお祝いすることもあります［写真8］。


8

2019
6月1・2日
サラワク州のみ祝日

インド系

DEEPAVALI / DIWALI〔ディーパバリ／ディワリ〕

ヒンドゥー教徒にとって最も重要な祭事の一つが、善（光）が悪（闇）に勝利したことを象徴し、「光の祭典」ともいわれる「ディーパバリ」（インド本国では「ディワリ」とよぶ）です。当日は、明け方、オイルバスで心身を清め、新しい衣装に身を包み、寺院に参拝します。寺院では、花飾りや果物、ココナッツミルクなどの供物が捧げられます。自宅では、玄関先やバルコニーなどにオイルランプを灯し、家中を明るく保ちます。また、カラフルに色付けされたお米や米粉を使って床に色鮮やかな絵を描く「コーラム（Kolam）」［写真5］が空間を華やかに演出します。ショッピングモールなどで見られる、花や孔雀などをモチーフに、細かく繊細でありながら、ダイナミックに彩られたコーラムは、とても美しいものです。

ディーパバリでは、インド系の伝統菓子、豆粉で作るスパイシーな揚げ菓子「ムルク（Muruku）」や甘いお菓子「ミタイ（Mithai）」など［写真6］が祝宴の中心となるようです。ご近所や友人にお裾分けするのも習わしです。


5


6

2019
10月27日
サラワク州以外全土の祝日

「民族」ごとにちがう
——マレーシアのおもな——
祝祭日

マレーシアの祭事には、民族や宗教によって様々な習わしや祈りの形があり、それぞれに特別な料理があります。互いの文化を尊重し、お祝いの日には民族を越えて自宅を訪問し合うという風通しのよさもこの国の魅力。祭事の時期に合わせて旅をすると、よりディープにマレーシアを体験できるでしょう。

文／上原亜季 Aki Uehara　写真／Hati Malaysia

コラム Column

音で訪ねるマレーシア

第5回

マレーシアの国民的歌姫シティ・ヌルハリザさん。デビューから20年以上にわたり輝き、愛され続けている人気歌手が今年10月に来日しました。



マレーシア好き、アジアの音楽好きの方の中には、1996年のデビューから多数のアルバムやシングルを発表してきたシティさんのCDを現地で入手した方も多いのではないでしょうか。デビュー当時、まだ10代だった彼女は、とても可愛らしい印象で、それでいて一度歌い出すとその素晴らしい歌声に誰もが驚くような新星でした。デビュー2年目で、マレーシアの音楽界で数多くの功績を遺した作曲家パッンガ・スハイミのプロデュースによるマレー伝統民謡曲を集めたアルバム『チンダイ（Cindai）』が大ヒット。以後、ポップスから伝統歌謡まで様々なスタイルの曲を見事に歌い上げ、ダンサーたちと伝統舞踊も取り入れた魅力的なステージを繰り広げてきたのです。

2018年10月4日、「第2回 日・ASEAN音楽祭」（於・NHKホール）に5年ぶり、二度目の出演を果たしたシティさんは、その圧倒的な歌唱力で日本のお客さんを魅了。来日に際し、光栄なことに私は通訳を務めさせていただきました。3月に女の子を出産し母となり、さらに女性としての魅力も増し、娘を抱えながらも精力的に仕事に向かう姿にこちらも背筋が伸びる思いでした。

最新のシングル「アンタ・プルマナ（Anta Permana）」は、YouTubeに公開されたミュージックビデオが1カ月間で再生回数約450万回と話題を呼んでいます。ファン自身が歌っている映像をハッシュタグ付きでSNSに投稿するとシティさんがピックアップして紹介してくれるため、多くの人々が歌をカバーする、という今の時代に合わせたプロモーションも注目されています。日本からも「Anta Permana」を検索して歌をカバーし、投稿してみてください。シティさんに届くかもしれませんよ！





左／最新シングル「Anta Permana」。右／最新アルバム「Simetri Siti」（※iTunesにて購入可）

YouTube >>> Dato' Sri Siti Nurhaliza - Anta Permana

文／上原亜季 Aki Uehara　写真提供・Photo Courtesy of Siti Nurhaliza Productions

---

銀幕の精神

マレーシア映画コラム 第2回

大志をもって描かれた

Mencari Rahmat（ムンチャリ・ラーマット）

「創造することは、勇気のいることである」とは、『ムンチャリ・ラーマット』（2018年）の監督アル・ジャフリー・モハマド・ユソプ氏の言葉です。本作は、アル・ジャフリーの長編デビュー作ですが、彼は、これまで映画、テレビ、演劇の脚本家として活躍してきました。長年にわたり経験を積んできたマレーシア映画界で監督が出会った様々な人物（ときには不愉快な人物も含めて）をパロディーとして、オスカー・ワイルドの喜劇『真面目が肝心（The Importance of Being Earnest）』をマレーシアのセッティングで描いた、可笑しくて、心温まるコメディー作品となっています。

キャストとして、日本の様々な映画祭でも上映された『細い目（Sepet）』（ヤスミン・アフマド、2005年）や『ブノハン（Bunohan）』（デイン・サイード、2012年）など、記憶に残る映画作品に出演しているシャリファ・アマニ、ナムロン、アメルル・アフェンディ、アディバ・ノール、アズマン・ハッサンなど、ベテラン俳優陣が登場します。今最も旬な俳優たちが、たった2つの空間でストーリーが展開する『Mencari Rahmat』で素晴らしい演技を見せていることは特筆に値するでしょう。

今日、マレーシアにおける映画製作は転換期にあります。監督たちは、大画面を通して国の行く末や方向性についてオープンに語り始めているのです。映画を通して国の向上に貢献する中で、アル・ジャフリー監督は、「変化」は勇気だけでなく、「神の恩恵（Rahmat）」を伴う必要があるのだと観る者に気付かせるのです。



A・サマッド・ハッサン
A Samad Hassan

マレーシアの映画製作者として受賞歴のあるインディーズ作品から大ヒット作まで約100の長編映画製作に携わる。非常勤講師のかたわら映画やマレーシア文化、黒魔術などについて講演もする。神戸にて留学経験があり、オヤジギャグを愛する。



（左から）監督、役者アメルル・アフェンディ、シャリファ・アマニのリハーサルの様子 ©AB Roll



ラストシーンの準備をする、（左2番目から）ナディア・アキラ、アメルル、アマニ、アディバ・ノール ©AB Roll

文／A・サマッド・ハッサン A Samad Hassan　翻訳／上原亜季 Aki Uehara

AYAM Since 1892
マレーシアで販売シェアNo.1*
脂ののったいわしとさばを厳選!
AYAMいわしとさばのトマトソース煮
このままでもアレンジしても
*2016Nielesen マレーシア調べ
輸入販売元:日仏貿易株式会社
製品情報やレシピはこちら
www.ayam.jp


好評につき期間延長(3月30日まで)
5星 マジェスティック・クアラルンプールに
泊まる贅沢な旅
豪華特典:ホテル体験スパ+アフタヌーンティー
旅行代金99,800円~(4日間)
担当のタキイです!

創業1983年、豊富な実績と現地サポートでマレーシアの旅をサポート。セランゴール州で話題の新スポット、「スカイミラー」ツアー販売代理店になりました。
マレーシア・ボルネオ地域専門旅行会社
MALAYSIA RESORT CLUB
THE MYSTERIOUS "MAN OF THE FOREST"
TOKYO・JAPAN
マレーシアリゾートクラブ
株式会社エムアールシージャパン
TEL:03-5846-8213 http://mrcj.jp
東京都知事登録旅行業 3-5248 号



Editors (Hati Malaysia)



上原 亜季
Aki Uehara

ムティアラ・アーツ・プロダクション代表。AFS生として一年間マレーシアの高校に留学。Universiti Sains Malaysiaの大学院にてマレーシアの伝統芸能の研究を行い、修士号取得。国際文化会館勤務を経て、現職。東南アジア芸能コーディネート、イベント企画・制作、記事執筆、マレー語通訳・翻訳。
mutiaraarts.pro



古川 音
Oto Furukawa

編集ライター。首都クアラルンプールに4年滞在した経験を活かし、「All About」や「CREA」ウェブサイトにてマレーシアの記事を執筆。また「マレーシアごはんの会」にてイベントや料理教室を主催。著書『ナシレマッ!』と『50のレシピ集』を発刊。現地ごはんツアーも開催。
マレーシアごはんの会
malaysianfood.org



Hati Malaysia

Hati Malaysiaは、上原亜季(マレーシアほか東南アジア伝統芸能コーディネーター)、古川音(マレーシア料理愛好家/ライター)の2人でユニットを組み、マレーシア文化通信フリーペーパー<WAU(ワウ)>の編集発行、マレーシア文化講座(芸能・映画・ごはん)の講師、そのほかイベントや現地ごはんツアー等を企画、開催しています。また、WAUにて取材してほしい、取り上げてほしい題材があれば、どうぞお気軽にご連絡ください。

WEB : hatimalaysia.com/Email : info@hatimalaysia.com

WAU Supporters

髙塚 利恵
Rie Takatsuka

映像制作会社、(株)オッドピクチャーズ代表。映画でメッセージを伝えるブランデッドムービーの制作に注力。 odd-pictures.asia

陳 維錚
TAN JC

デザイナー、現代アート作家、ジョホール出身。96年に来日し、日本語は敬語も漢字もカンペキ。世界を飛び回り、創作活動を行っている。 tanjc.net

村手 景子
Keiko Murate

グラフィックデザイナー、エディトリアルデザイナー、アートディレクター。台湾にて個展を行うなど、活動の幅は広い。 keikomurate.com

田中 じゅん
Jun Tanaka

サラワク州クチンを愛するグラフィックデザイナー。名刺から雑誌まで印刷物ならなんでも。自主制作したクチン・グルメガイドはHPから。 mee-print.com

Malaysia Fair 2018



カムルル・フシン氏は、ソロ演奏のほか、来場者とともに伝統芸能のワークショップも開催



チャー氏のクッキングショーでは、ナシレマッ、鶏骨茶、ロティジョンのレシピを伝授




(左)マレーシア国立民族舞踊団「イスタナ・ブダヤ」による華麗な演舞　(右) エイミー・サーチ氏は往年のヒット曲「イサベラ」「ロザーナ」などを熱唱！

新宿にマレーシア空間が出現！

2018年11月2〜4日、日本で初めてのマレーシア単独イベント「マレーシアフェア Malaysia Fair 2018」が開催されました。伝統音楽からグルメまで様々なコンテンツが提供され、来場者は3日間で約3万人を記録！ 多くの人でにぎわいました！







マレーシアの国旗がはためく新宿中央公園。ステージでは、伝統舞踊や伝統音楽家カムルル・フシン氏によるパフォーマンス、マレーシア人シェフのチャー氏によるクッキングショーなどが披露。さらには、アジアロック界のレジェンド、エイミー・サーチ氏によるライブも行われ、観客も一緒に大合唱！ また、ラクサ、ナシレマ、ロティ・チャナイ、バクテーなどマレーシアが誇るグルメが勢ぞろいし、ときに料理購入のための長蛇の列ができるほど。私たちHati Malaysiaは、伝統音楽や食文化プログラムを担当しました。2019年も開催決定とのこと。来年もお会いましょう！

（11月20日現在）

2018年 日本に訪れたマレーシアのスター達

おもな



東京・お台場のZepp Tokyoにて、日本初となるコンサートを行った“ラブソングの王子”、光良さん



「Jalan-Jalan JEPUN」のTV撮影で来日したセレブシェフ、アドゥさん。東北の魅力をマレーシアで発信中！



俳優シャリファ・アマニ（右）さん、イデル・プトラさんが3か国コラボ舞台『ビューティフル・ウォーター』に出演



「第2回 日・ASEAN音楽祭」にマレーシア代表としてシティ・ヌルハリザさんが出演。通訳担当の上原亜季とともに



音楽／映画界で活躍するピートさん。東京国際映画祭「アジアの風部門」の審査員、「ピート・テオ特集」上映のため来日



ロック界のレジェンド、エイミー・サーチさん。エイミーさんプロデュースの「パイナップルコーヒー」を手に記念撮影！

Hati Malaysiaよりひと言

今年はマレーシアの著名人が多数日本に訪れ、私たちも取材などの機会に恵まれた幸運な年でした。2019年も多くのマレーシアスターが来日しますように！

マレーシア文化通信 WAU Malaysia Cultural Post No.18 発行・編集：Hati Malaysia お問合せ：info@hatimalaysia.com WEB: http://hatimalaysia.com
後援：駐日マレーシア大使館、日本マレーシア協会
2018年12月1日発行
フリーペーパー